

正しく怖がれ、小児救急1人対応！ ～ファーストタッチから専門診療へ～

平本龍吾

カンタービレこどもクリニック/松戸市立総合医療センター小児医療センター

日常の診療および時間外や当直帯に、子どもたちにかかわろうと考えている若手・中堅医師、実際にかかわっている開業医、小児救急に携わる他科系医師にとって、小児救急対応の苦手意識が少しでも減り、明日からの診療にすぐに役立つような特集号を企画しました。

少子化が急激に進行している今こそ、無限の可能性・未来がある子どもたちを、みんなで守って育てていく社会が強く求められています。特にわれわれ医師においては、特に時間外受診が多い小児患者を適切に診療する能力も必要とされています。そしてその医師のなかには、小児科医だけでなく、研修医、当直に携わる他科系医師、救急医も含まれます。

実際の状況はどうかというと、残念ながら全国各地で小児救急医療体制の維持が解決すべき喫緊の課題となっています。その理由としては、COVID-19の影響による少子化の急速な進行、2024年4月から導入された「医師の働き方改革」の影響、小児医療の地域格差拡大等が挙げられます。もちろん各地の小児救急医療体制は、小児科医だけで維持できるわけではなく、研修医や他科系医師たちの応援で成り立っています。ただ救急外来でちょっと緊張しながら子どもの診療に携わる医師にとって、緊急性があるか、重篤な疾患が隠れていないか、このまま帰していいのか、説明をどうするか、専門医へ紹介すべきかどうか、迷うべきことが多いのが現状です。

本特集号は二部構成になっています。執筆は、それぞれの専門分野の第一線で大活躍中の中堅・ベテランにお願いしました。

第Ⅰ章「小児救急：ファーストタッチから専門診療へ」では、小児救急の基本、診療のコツ、バイタルの利用方法、専門医・集中治療医へ紹介する際のコツ、搬送時の注意、虐待、他科系医師が子どもを診る際のポイントを取り上げます。

第Ⅱ章「どんなに忙しくてもさけよう重大な見落としを！」では実際の診療にすぐに役立つように、各疾患（呼吸・循環・神経・内分泌・代謝・腎臓・血液・感染症）について、事例も含めてわかりやすく説明しています。加えて、小児外科疾患・小児の外傷についても診療のコツ、そしてエコー利用のポイントを取り上げています。

小児救急に携わってくれる皆様方にとって、本特集号が実践ですぐにでも役立つ道標になることを心から願っています。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった編集委員の先生方、多忙なか執筆を快諾してくださった先生方、雑誌編集部の方に心より御礼申し上げます。